

品位ある五輪めざせ



奥戸総合スポーツセンター 陸上競技場リニューアル

葛飾区民記者・かつしかPPクラブ

隅田 昭

まえがき



第32回夏季オリンピック東京大会は、西暦2020年7月24日から8月9日まで開催される予定だ。残すところ2年を切った。

全国で催事が行われているが、葛飾区の奥戸総合スポーツセンターも、7月21日に国際規格に合った競技場にリニューアルされ、記念イベントが華やかに催された。

教育委員会が「スポーツを通じて健康で元気な生活を営むためのきっかけにしてほしい」と考え、主催したものだ。会場では老若男女と一緒に、ランニングや様々な運動を行い、爽やかな汗を流した。

もくじ

1. まえがき
2. ラジオ体操で準備はOK
3. 前人未到のトラック走れ
4. 近未来のアスリート参上
5. 猛暑を避けナイトRUN
6. 草の根レベルのもてなし
7. 見せよ下町の底力を



ラジオ体操で準備はOK



夕陽も傾いた17時から、吹奏楽団によるファンファーレとともに記念式典がはじまった。青木区長ら多くの来賓が競技者に祝辞を述べる。

司会進行は葛飾と縁のあるヨシモトから、「浪速のレディガガ」と呼ばれるハーフタレントの「ロバータ」と、お子さんに人気の「ダイノジ」が呼ばれ、盛り上げる。（競技者より熱くなってしまったが・・・）

はじめに北京五輪4×100 mリレー銅メダリスト「高平慎士」さんが紹介され、ちびっ子だけでなく、ママさんからも黄色い声上がる。

アテネパラリンピック陸上車いす800m銅メダリストの「廣道（ひろみち）純」選手や、100kmマラソン世界ランク9位の「能城（のうじょう）秀雄」さんも、会場でパフォーマンスを披露した。

来賓の紹介が終わったあと、参加者が一緒にラジオ体操を行い汗をかいた。競技時間まで時間はあるが、準備万端でのぞむ。

前人未到のトラック走れ



都立南葛飾高校の陸上部が、サブトラックで入念に柔軟運動を行っていた。女子部員の藤田さんと、小川さんから話をうかがう。

「わたしたちは入部したての1年生で、50m走に出場します。でも、顧問が数種目にエントリーして、ずっと行方がわかりません。(笑い) きょうの授業はおやすみですが、勉強とくらべると数段たのしいです。たくさんの友だちができて、知らない人と話せるのもいいですね。がんばって練習したあと、記録をのばせたときはサイコーの気分です。友だちが自分の結果のように、よかったねと声をかけてくれるので、とても励みになります。クラブをやめようと思ったことなんてありません」

さあ、いよいよ50mと100m記録走がはじまる。

ピストルの音がひびいた。前人未到のトラックを老若男女問わず、先着順に集まった100人の精鋭が、さっそうと駆けぬけていく。

近未来のアスリート参上



新しい人工芝を踏みしめ、小学生参加の「かけっこ教室」が始まる。指導は来賓で紹介された、北京五輪銅メダリストの高平慎士さんだ。

近隣の青砥から親子4人で来場した桐谷さんが、「長男がオリンピック選手に教えてもらえるので、喜んでますよ。きょうは暑いですねえ。（汗を拭く）みんなの記念になるんじゃないかと、心待ちにしています。競技に出ない末っ子は18時30分からはじまる、仮面ライダービルドショーが目当てです。私も競技に出て家族にいいところを見せようと、秘かに2週間前から練習していました」と、すこし照れながら話す。

左右に跳ねたり、前後にスキップしたりと、定員100名の高倍率で選ばれた子どもたちは、慣れない走りに悪戦苦闘する。ただとてつもなく、足の速い子どもが数人いた。その中から未来のメダリストやサッカーに野球など、ワールドクラスのアスリートが生まれると期待しよう。

猛暑を避けナイトRUN



猛暑のなかで消防隊も待機している。ただ、日頃から鍛えているせいなのか、最後まで熱中症で倒れる選手は見かけなかった。

ことしの7月は異常気象だ。青梅で40.3度と、東京都の観測史上はじめて40度を超えた。2年後に開催される夏季オリンピックでも、暑さ対策が急務になるだろう。イベントでは参加者の体調も考え、1kmの外周をチームで2時間半走る、ナイトリレーマラソンを計画した。

川崎市の某企業で働く美女ランナー、浦田さんと定道さんがインタビューに快く応じてくれた。このイベントはスマホで見つけたと聴く。

「ダイエットと健康維持のため、週末に職場サークルの5人から10人といっしょに走っています。今日は暑いのでナイトリレーですが、体調の良い日はトライアスロンや駅伝にもトライします。普段話せない方と、気軽にコミュニケーションをとれるのがメリットでしょうね」

草の根レベルのもてなし



かつしか走ろう会の山本さんが、「いつも10人ほどで、都内近郊のマラソン大会に出場しています。LINEやSNSで募集していて、入会や退会もフリーの楽しいサークルです。走ったあとのアルコールが最高で、一度走ったら病みつきになりますよ」と朗らかに答えてくれた。

親子競技がはじまった会場では、多くのボランティアが汗を流していた。細やかに気遣う有志のおかげで、イベントが成立しているのだ。

次の東京五輪では、大会ボランティアが約8万人、都市ボランティアが約3万人必要と伝えられており、ことしの9月から募集が始まる。

直近で開催されたリオデジャネイロや、平昌（ピョンチャン）では、市民ボランティアが観客を積極的に迎え入れ、大会を成功に導いた。

わが国も「お・も・て・な・し」で五輪を勝ち取ったが、品位のあるサービス精神を前面に出し、草の根レベルで諸外国の方をお迎えしよう。

見せよ下町の底力を



◆ 写真・文・編集： 隅田 昭

◆ 撮影：平成30年7月21日

◆ 発行：平成30年8月31日

本冊子の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、
法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。